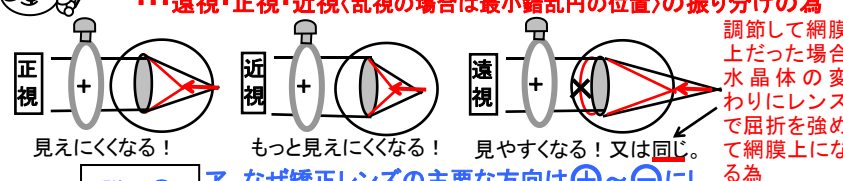
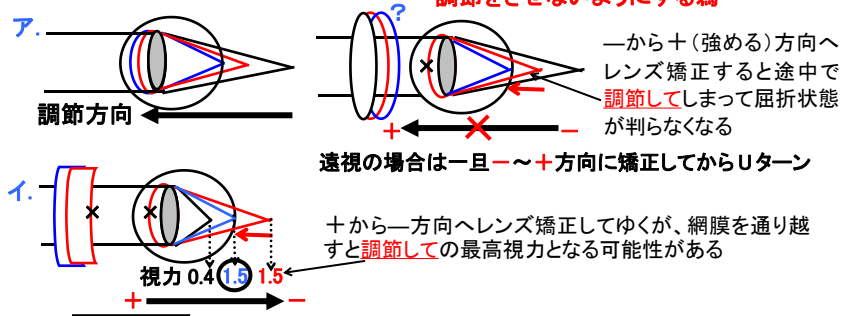


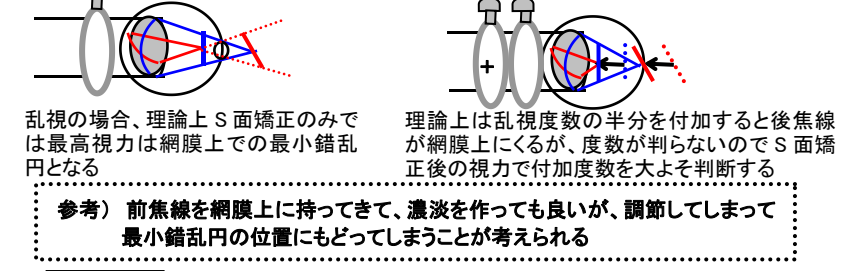
説明① なぜS+0.5Dを入れるか？



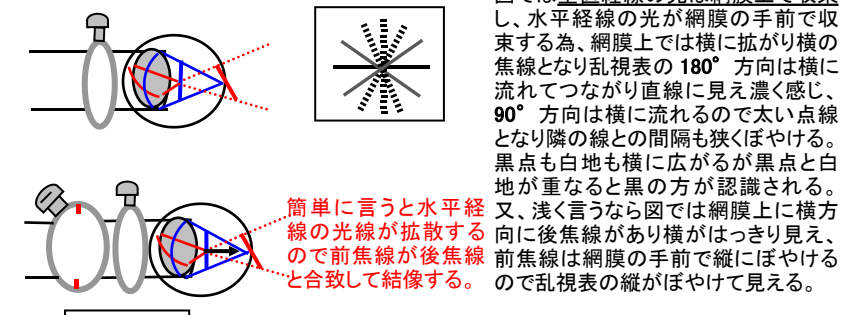
説明② ア. なぜ矯正レンズの主要な方向は⊕〜⊖にし、イ. なぜ最高視力の出る最も+(近視)寄りのレンズにするか？



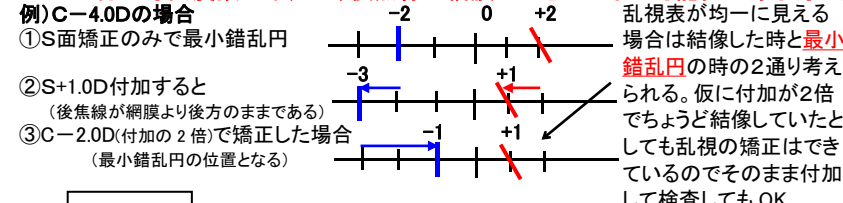
説明③ なぜ凸レンズを付加して乱視表を見せるか？



説明④ なぜぼやけたと感じる乱視表の方向に円柱レンズの軸を入れるか？



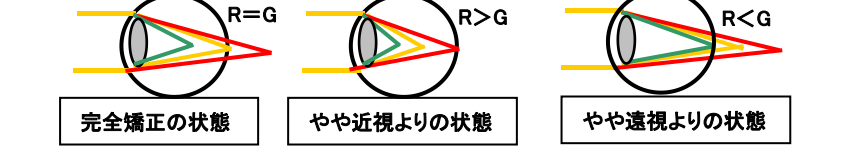
説明⑤ なぜ円柱レンズ度数が乱視表を見る時の付加球面度数の2倍になったら、再度凸レンズを付加するのか？



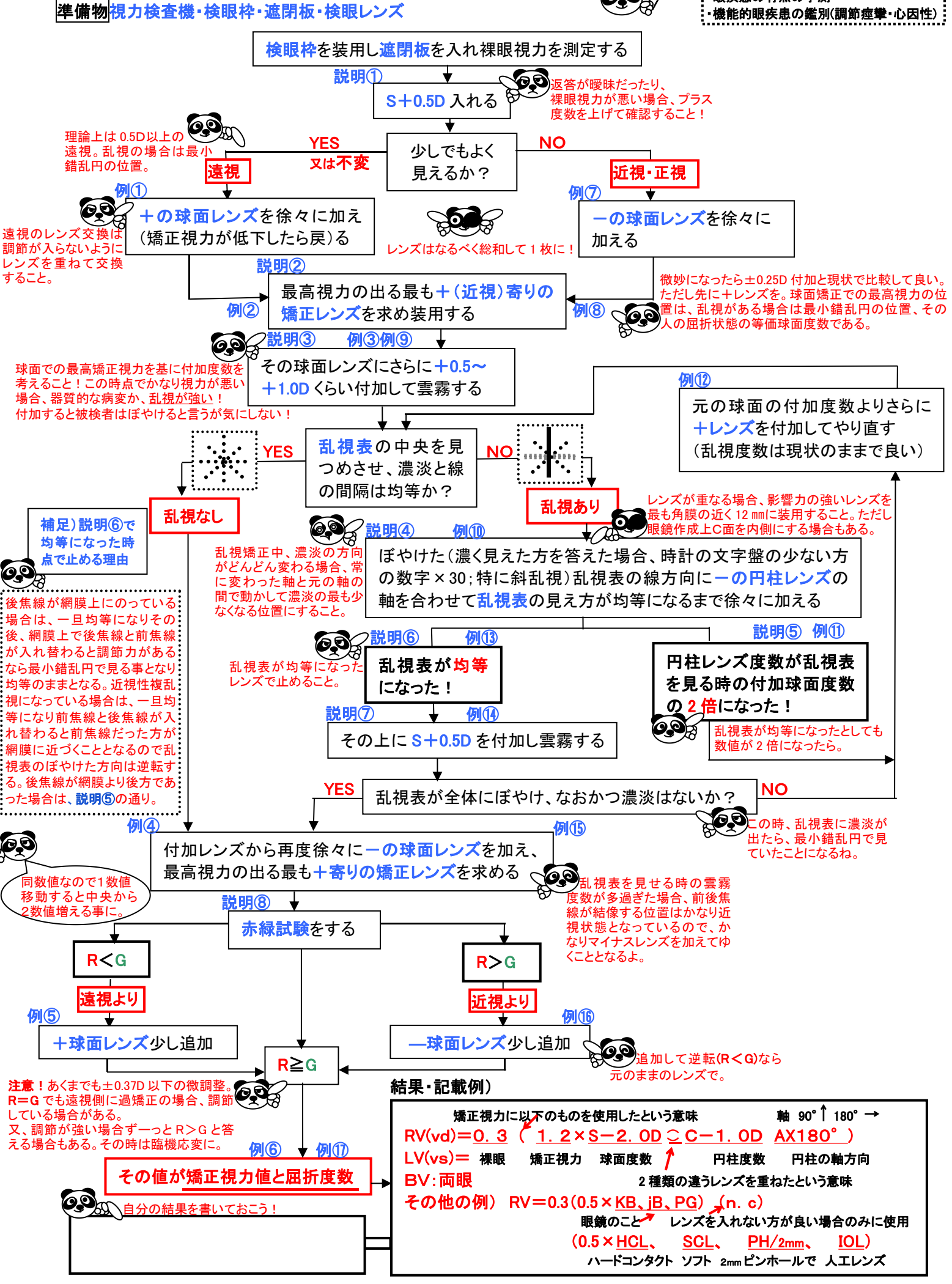
説明⑦ なぜその上にS+0.5Dを入れるか？



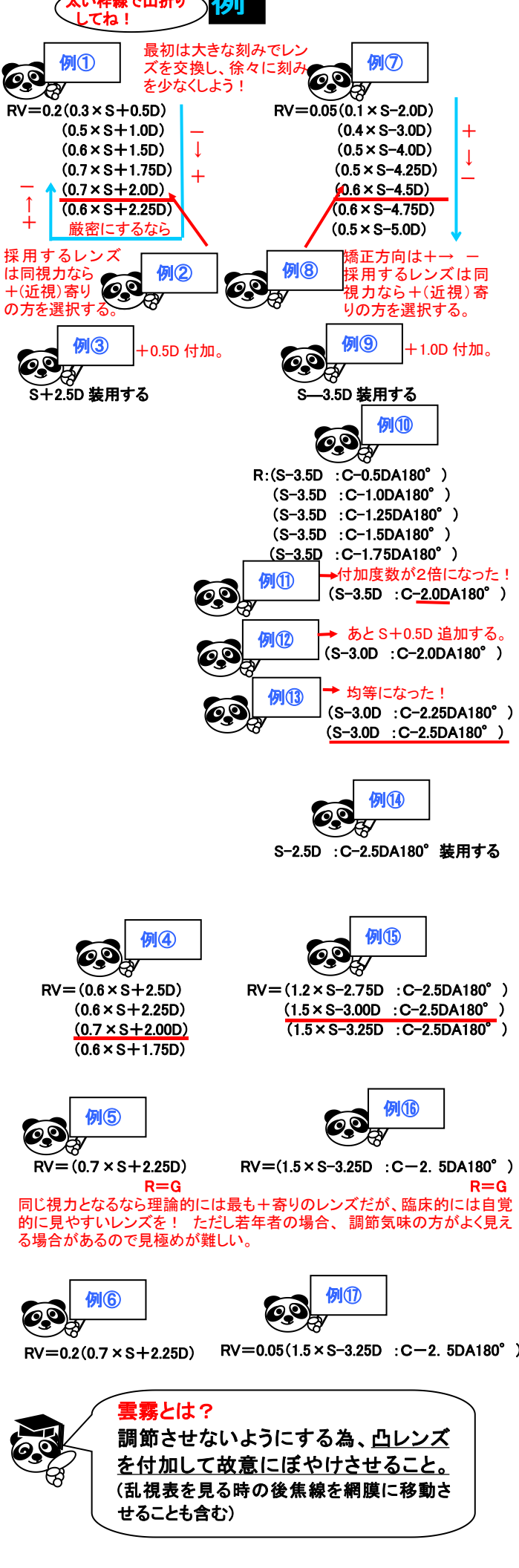
説明⑧ 赤緑試験とはどういうものか？



自覚的屈折検査-乱視表によるレンズ交換法 * 理論に忠実に



例



自覚的屈折検査(乱視表によるレンズ交換法)グラフシミュレーション I 練習用

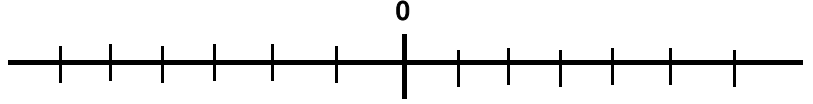
EX) 実際の度数 : S+3.0D : C-2.0D Ax180° →

変換

① 実際の屈折値



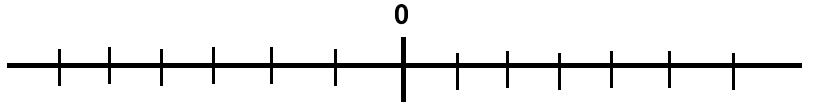
パンダも混乱!
 +寄りのレンズと言う言い方は近視寄りということ! -方向に矯正とは遠視方向に矯正ということ。-レンズは屈折が弱く(遠視方向)、+レンズは屈折が強く(近視方向)なるので! と考えてね。
 グラフシミュレーションは実際の屈折状態の位置。ただし、眼鏡学校等では屈折の不足分を表し、グラフの向かって右側が一表示となる。



屈折の名称

② +0.5D 入れると

と言う



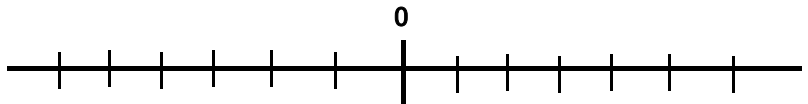
屈折のふり分け

③ 最高視力が出る網膜の位置は?

最高視力が出るのに必要な球面レンズ度数は?



・レンズどうしは足す
 ・矯正は残余の屈折状態を表すので引く

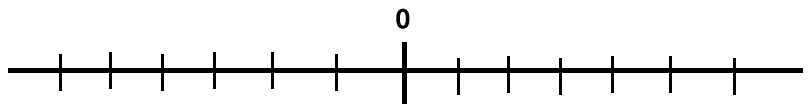


屈折状態

装用レンズ

屈折の名称

④ 理論上、乱視表を見せるのに必要な付加度数は? (後焦線を網膜上に)

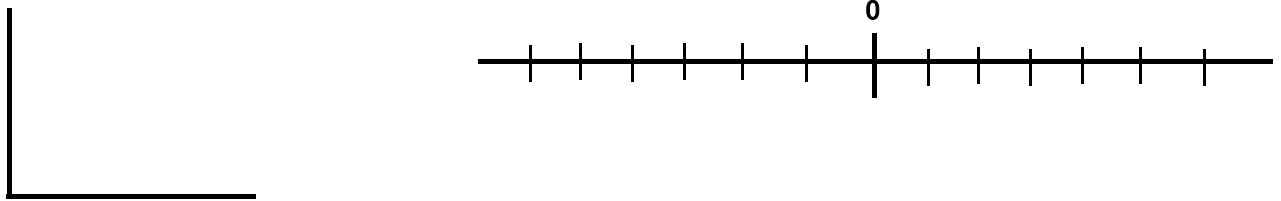


屈折状態

装用レンズ

屈折の名称

⑤実際は S+0.75D 付加したとすると、

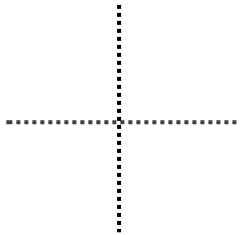
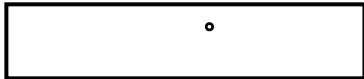


屈折状態

装用レンズ

屈折の名称

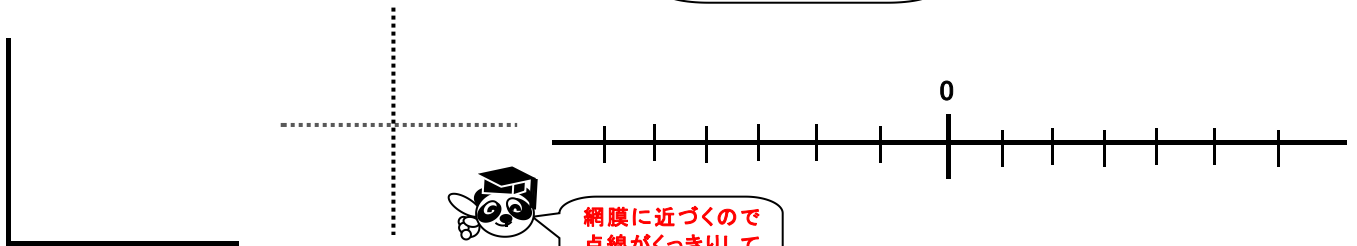
⑥この状態で乱視表を見せるとどの方向が濃く又はぼやけて見えるか？ と言う



⑦乱視の矯正の軸は何度？



⑧C-1.0DAx ° 装用させると乱視表は？ と言う



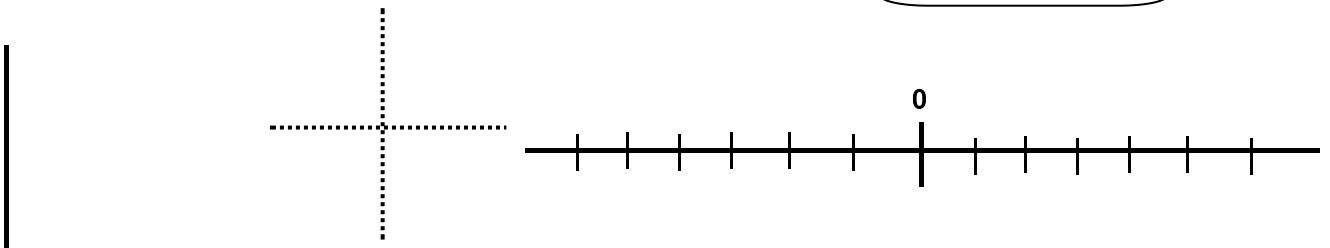
網膜に近づくので
点線がくっきりして
くるよ。

屈折状態

装用レンズ

屈折の名称

⑨C-1.5DAx ° (C-0.5D追加)装用させると乱視表は？ と言う



屈折状態

装用レンズ

屈折の名称

⑩ 円柱度数が乱視表を見る時の付加球面度数の **2倍** になったので S+0.5D 追加する
 乱視表は？ という

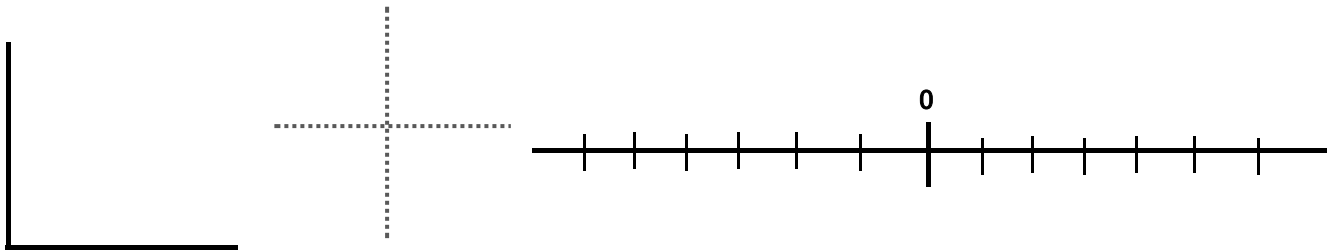


屈折状態

装用レンズ

屈折の名称

⑪ C-1.75D Ax ° (C-0.25D 追加) 装用させると乱視表は？ という

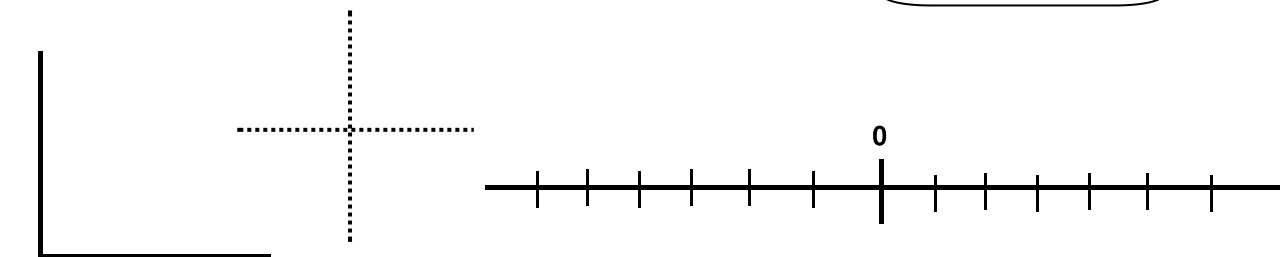


屈折状態

装用レンズ

屈折の名称

⑫ C-2.0D Ax ° (C-0.25D 追加) 装用させると乱視表は？ という

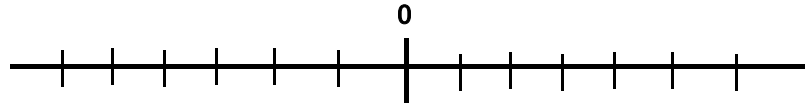
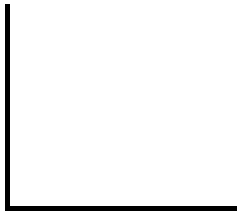


屈折状態

装用レンズ

屈折の名称

⑬ S+0.5Dで雲霧すると という

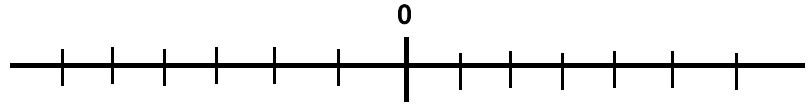


屈折状態

装用レンズ

屈折の名称

⑭ 雲霧レンズから度数を 0.25D 下げる (S-0.25D 加える) と という

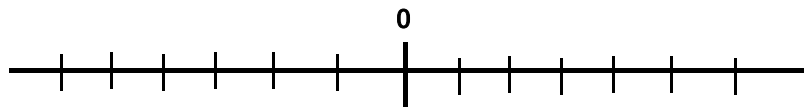


屈折状態

装用レンズ

屈折の名称

⑮ さらに、度数を 0.25D 下げる (-0.25D 加える) と という



屈折状態

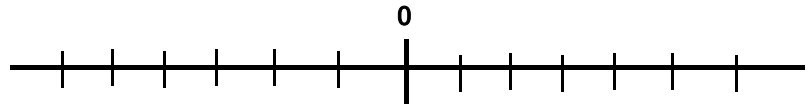
装用レンズ

屈折の名称

⑩⑪のレンズと、度数を 0.25D 下げた(-0.25D 加えた)レンズと比較すると

0.25D 下げたレンズが

と言う



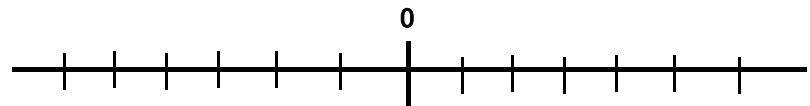
屈折状態

装用レンズ

屈折の名称

⑫さらに⑩のレンズと度数を 0.25D 下げた(-0.25D 加えた)レンズでは

と言う



屈折状態

装用レンズ

屈折の名称

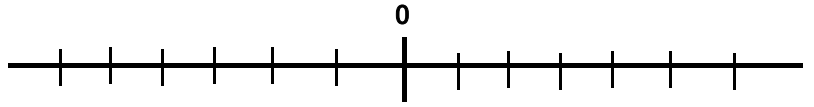
⇒
調節して

⑬最高視力の出る最も+寄りのレンズは？

自覚的屈折検査(乱視表によるレンズ交換法)グラフシミュレーションⅡ

EX) 実際の度数: S-5.0D

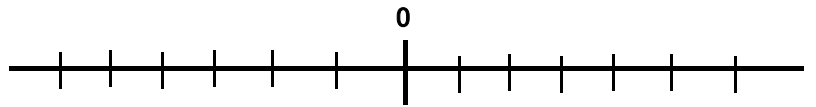
① 実際の屈折値



屈折の名称

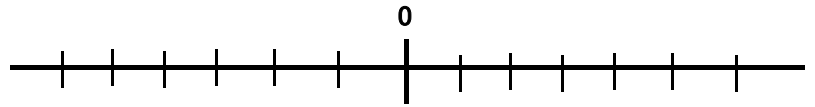
② +0.5D 入れると と言う

屈折のふり分け



③ 乱視があると仮定して最高視力が出る網膜の位置は？

理論上、最高視力が出るのに必要な球面レンズ度数は？



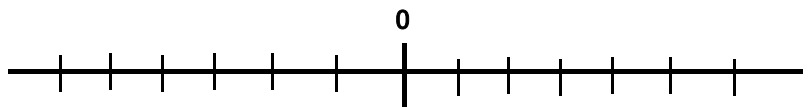
屈折状態

装用レンズ

屈折の名称

④ 乱視表を見せるのに必要な付加度数は？(後焦線を網膜上に)

最高矯正視力値に応じて。
この場合、疾患がなければ
視力は良いでしょう。

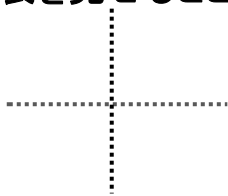


屈折状態

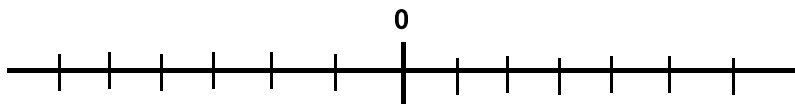
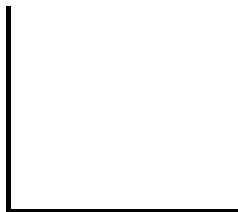
装用レンズ

屈折の名称

⑤この状態で乱視表を見せるとどう見えるか？ と言う



⑥④のレンズから度数を 0.25D 上げる (S-0.25D 加える) と言う

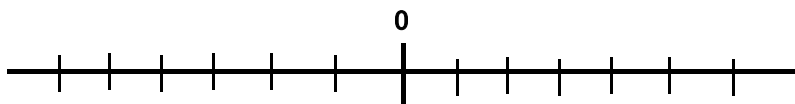
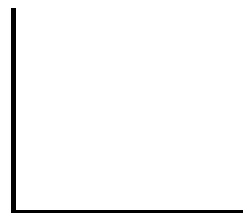


屈折状態

装用レンズ

屈折の名称

⑦さらに、度数を 0.25D 上げる (-0.25D 加える) と言う



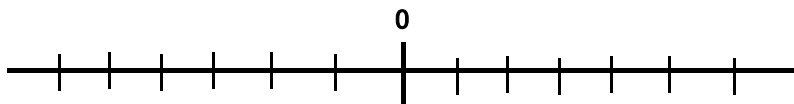
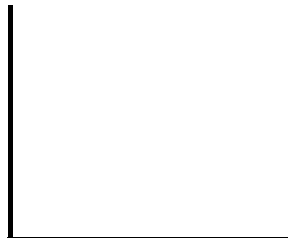
屈折状態

装用レンズ

屈折の名称

⑧さらに⑦のレンズと、度数を 0.25D 上げた (-0.25D 加えた) レンズと比較すると

と言う



屈折状態

装用レンズ

屈折の名称

調節して

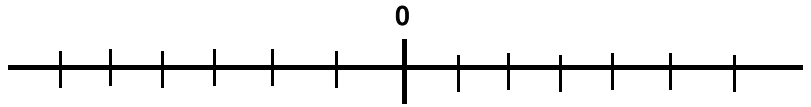


⑨最高視力の出る最も+寄りのレンズは？

自覚的屈折検査(乱視表によるレンズ交換法)グラフシミュレーションⅢ

EX) 実際の度数 : S-3.0D : C-3.0D Ax90° → 変換

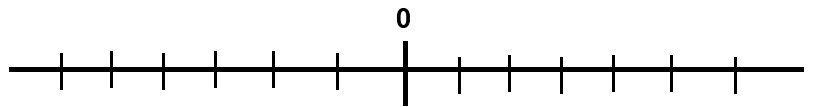
① 実際の屈折値



屈折の名称

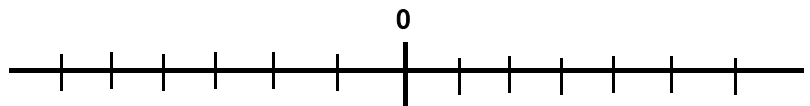
② S+1.0D 入れる と言う

屈折のふり分け



③ 最高視力が出る網膜の位置は？

理論上、最高視力が出るのに必要な球面レンズ度数は？

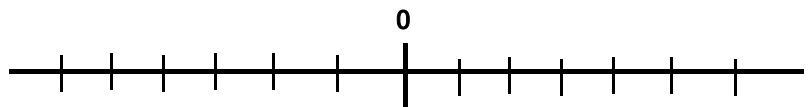


屈折状態

装用レンズ

屈折の名称

④ 理論上、乱視表を見せるのに必要な付加度数は？(後焦線を網膜上に)

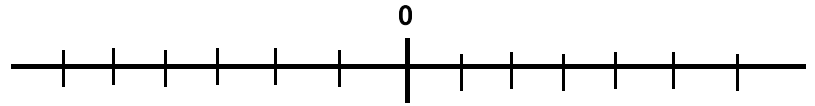


屈折状態

装用レンズ

屈折の名称

⑤実際は S+1.0D 付加したとすると、

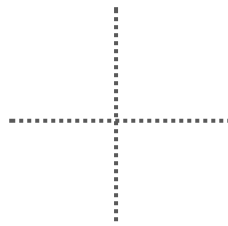


屈折状態

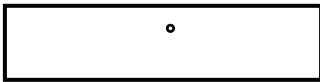
装用レンズ

屈折の名称

⑥この状態で乱視表を見せると、どう見えるか？ という

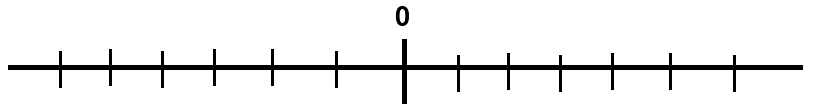
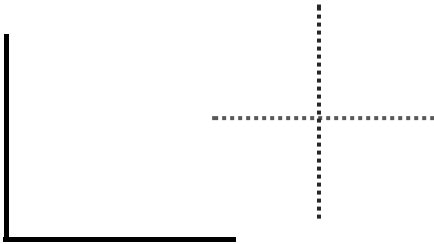


⑦乱視の矯正の軸は何度？



本当は C 面のステップはもっと細かくね！

⑧C-1.0D Ax ° 装用させると乱視表は？ という

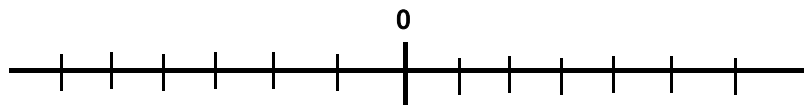
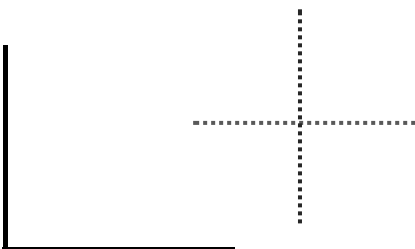


屈折状態

装用レンズ

屈折の名称

⑨C-2.0D Ax ° (C-1.0D追加)装用させると乱視表は？ という

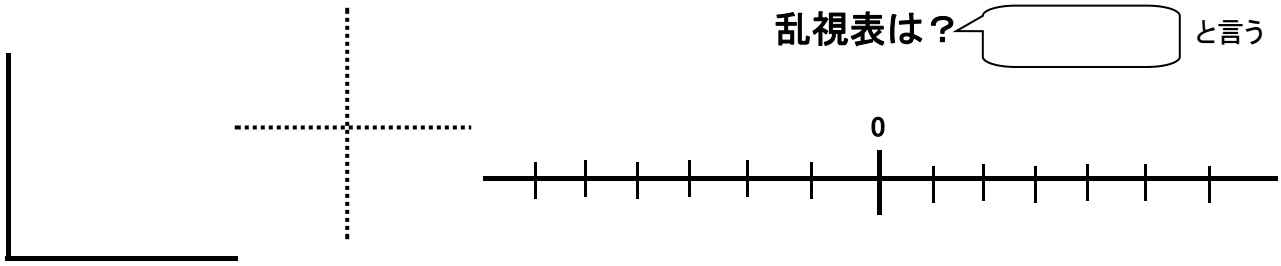


屈折状態

装用レンズ

屈折の名称

⑩ 円柱度数が乱視表を見る時の付加球面度数の **2倍** になったので S+1.0D 追加する
乱視表は？ という

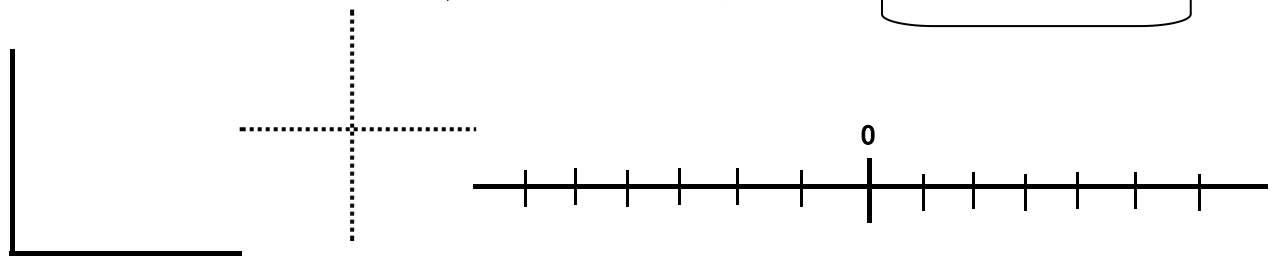


屈折状態

装用レンズ

屈折の名称

⑪ C-2.5D Ax ° (C-0.5D 追加) 装用させると乱視表は？ という

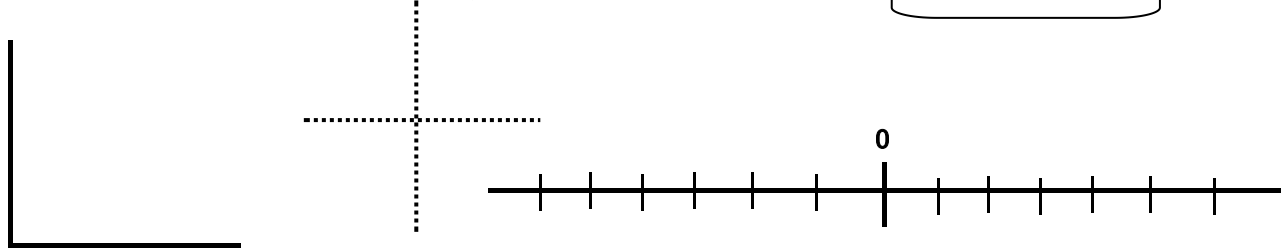


屈折状態

装用レンズ

屈折の名称

⑫ C-3.0D Ax ° (C-0.5D 追加) 装用させると乱視表は？ という

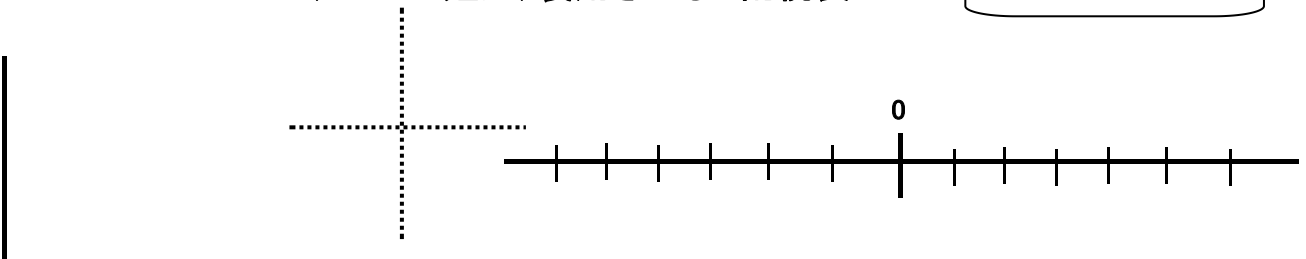


屈折状態

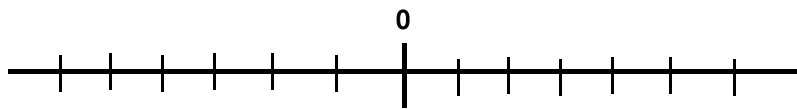
装用レンズ

屈折の名称

○ 仮に C-3.5D Ax ° (C-1.0D 追加) 装用させると乱視表は？ という



⑬ S+0.5Dで雲霧する という

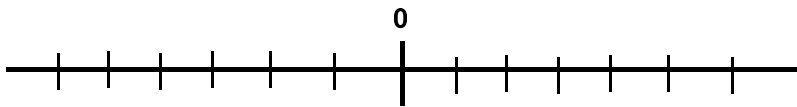


屈折状態

装用レンズ

屈折の名称

⑭ 雲霧レンズから度数を 0.25D 下げる (S-0.25D 加える) と という

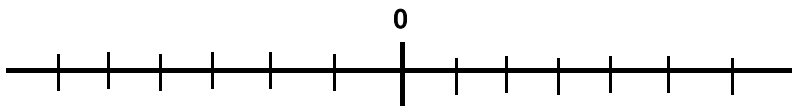


屈折状態

装用レンズ

屈折の名称

⑮ さらに、度数を 0.25D 下げる (-0.25D 加える) と という



屈折状態

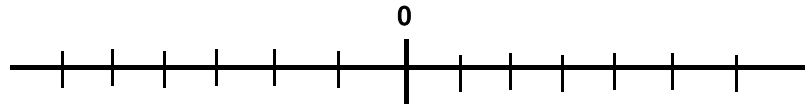
装用レンズ

屈折の名称

⑩⑪のレンズと、度数を 0.25D 下げた(-0.25D 加えた)レンズと比較すると

0.25D 下げたレンズが

と言う



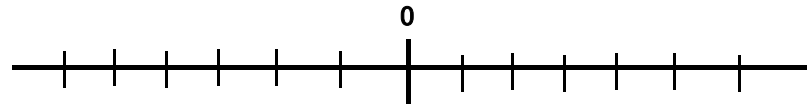
屈折状態

装用レンズ

屈折の名称

⑫さらに⑩のレンズと度数を 0.25D 下げた(-0.25D 加えた)レンズでは

と言う



屈折状態

装用レンズ

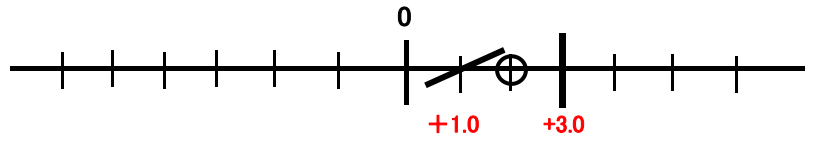
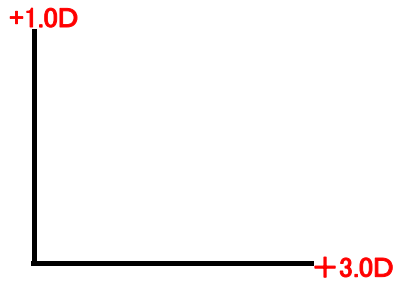
屈折の名称

⇒
調節して

⑬最高視力が出る最も+寄りのレンズは？

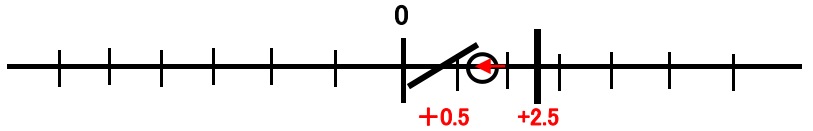
EX) 実際の度数 : S+3.0D : C-2.0D Ax180° $\xrightarrow{\text{変換}}$ S+1.0D : C+2.0D Ax90°

① 実際の屈折値



屈折の名称 **遠視性複乱視 直乱視**

② +0.5D 入れると **見やすい! 変わらない!** と言う



屈折のふり分け **遠視**

③ 最高視力が出る網膜の位置は?

最小錯乱円

最高視力が出るのに必要な球面レンズ度数は?

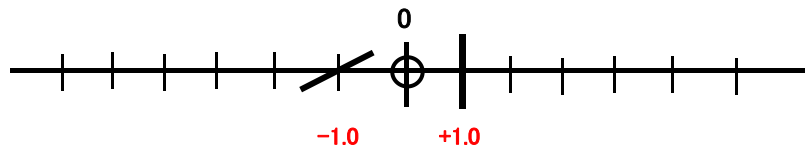
S+2.0D(等価球面度数)

$+1.0 - (+2.0) = -1.0$



・レンズどうしは足す
・矯正は残余の屈折状態を表すので引く

$+3.0 - (+2.0) = +1.0$



屈折状態 **S+1.0D : C-2.0D Ax180°**

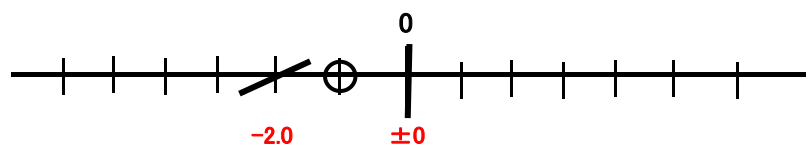
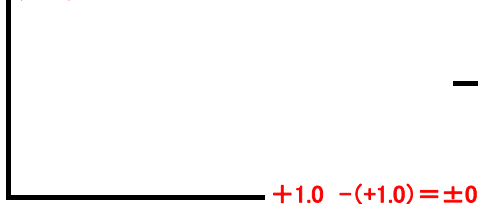
装用レンズ **S+2.0D**

屈折の名称 **混合乱視 直乱視**

④ 理論上、乱視表を見せるのに必要な付加度数は? (後焦線を網膜上に)

**S+1.0D
(乱視度数の 1/2)**

$-1.0 - (+1.0) = -2.0$



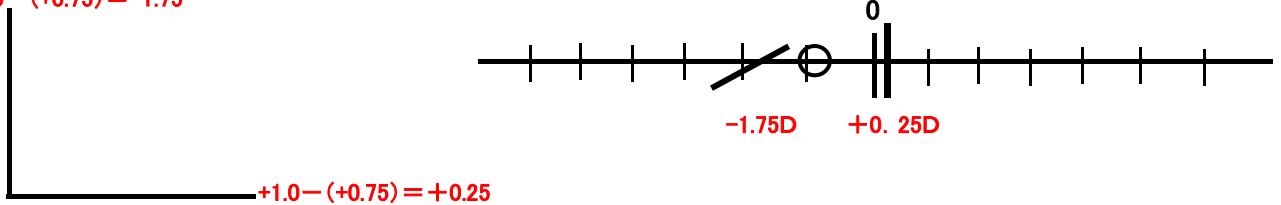
屈折状態 **S±0D : C-2.0D Ax180°**

装用レンズ **S+3.0D**

屈折の名称 **近視性単乱視 直乱視**

⑤実際は S+0.75D 付加したとすると、

$$-1.0 - (+0.75) = -1.75$$



$$+1.0 - (+0.75) = +0.25$$

屈折状態

S+0.25D : C-2.0Dx180°

装用レンズ

S+2.75D

屈折の名称

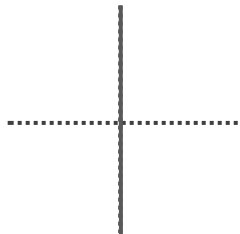
混合乱視 直乱視

⑥この状態で乱視表を見せるとどの方向が濃く又はぼやけて見えるか？

縦が濃い

と言う

90°



⑦乱視の矯正の軸は何度？

180°

⑧C-1.0Dx180° 装用させると乱視表は？

まだ縦が濃い

と言う

$$-1.75 - (-1.0) = -0.75$$



$$+0.25$$

網膜に近づくので
点線がくっきりして
くるよ。

屈折状態

S+0.25D : C-1.0Dx180°

装用レンズ

S+2.75D : C-1.0Dx180°

屈折の名称

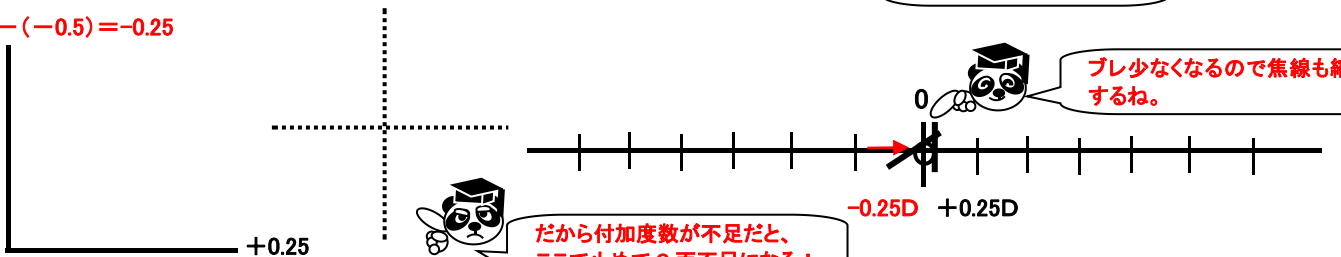
混合乱視 直乱視

⑨C-1.5Dx180° (C-0.5D追加) 装用させると乱視表は？

同じになった！

と言う

$$-0.75 - (-0.5) = -0.25$$



$$+0.25$$

だから付加度数が不足だと、
ここで止めてC面不足になる！

ブレ少なくなるので焦線も縮小
するね。

屈折状態

S+0.25D : C-0.5Dx180°

装用レンズ

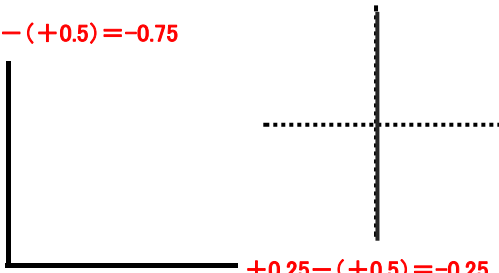
S+2.75D : C-1.5Dx180°

屈折の名称

混合乱視 直乱視

⑩ 円柱度数が乱視表を見る時の付加球面度数の2倍になったので S+0.5D追加する
乱視表は？ **縦が濃い** という

$$-0.25 - (+0.5) = -0.75$$



$$+0.25 - (+0.5) = -0.25$$



屈折状態

S-0.25D : C-0.5DAx180°

装用レンズ

S+3.25D : C-1.5DAx180°

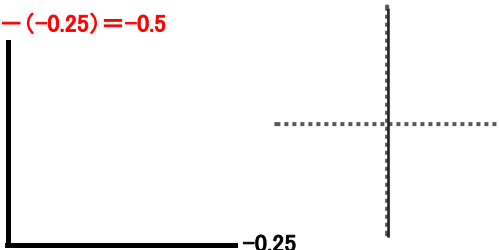
屈折の名称

近視性複乱視 直乱視

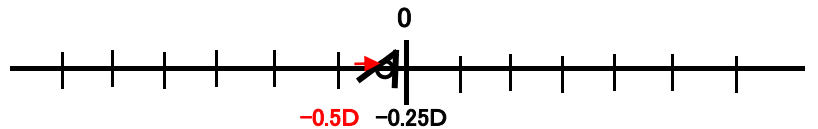
⑪ C-1.75DAx180° (C-0.25D追加)装用させると乱視表は？

**縦が濃いかなあ～
同じかなあ～** という

$$-0.75 - (-0.25) = -0.5$$



$$-0.25$$



とりあえず円柱
レンズ追加しよう！

屈折状態

S-0.25D : C-0.25DAx180°

装用レンズ

S+3.25D : C-1.75DAx180°

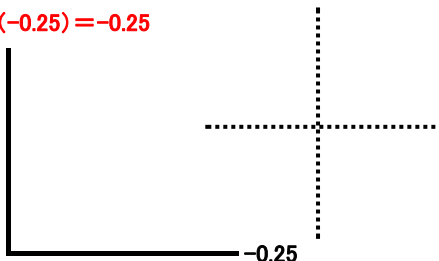
屈折の名称

近視性複乱視 直乱視

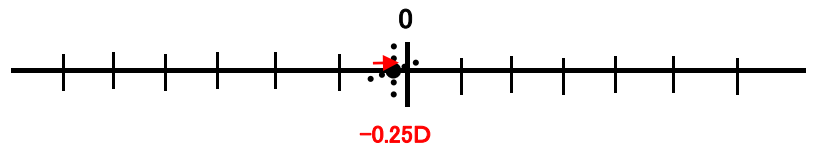
⑫ C-2.0DAx180° (C-0.25D追加)装用させると乱視表は？

同じになった！ という

$$-0.5 - (-0.25) = -0.25$$



$$-0.25$$



屈折状態

S-0.25D

装用レンズ

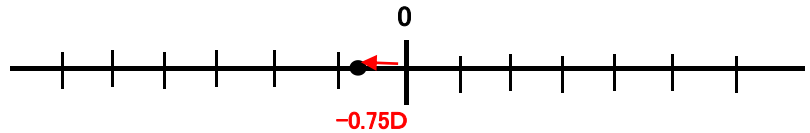
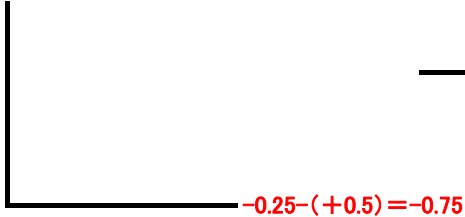
S+3.25D : C-2.0DAx180°

屈折の名称

近視

⑬ S+0.5Dで雲霧すると **見えにくい!** と言う

$$-0.25 - (+0.5) = -0.75$$



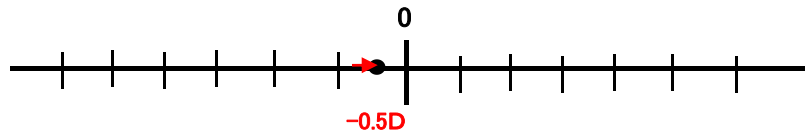
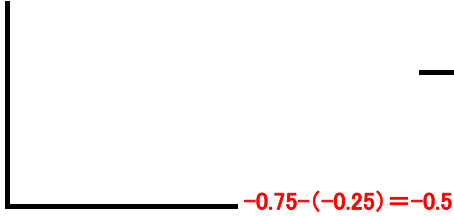
屈折状態 **S-0.75D**

装用レンズ **S+3.75D : C-2.0D Ax180°**

屈折の名称 **近視**

⑭ 雲霧レンズから度数を 0.25D 下げる (S-0.25D 加える) と **見やすい** と言う

$$-0.75 - (-0.25) = -0.5$$



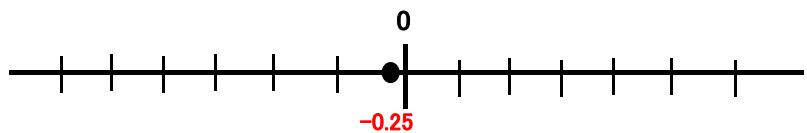
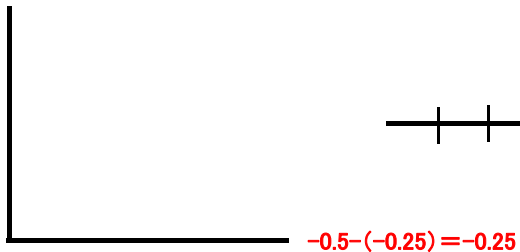
屈折状態 **S-0.5D**

装用レンズ **S+3.5D : C-2.0D Ax180°**

屈折の名称 **近視**

⑮ さらに、度数を 0.25D 下げる (-0.25D 加える) と **見やすい** と言う

$$-0.5 - (-0.25) = -0.25$$



屈折状態 **S-0.25D**

装用レンズ **S+3.25D : C-2.0D Ax180°**

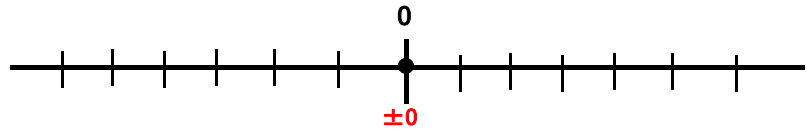
屈折の名称 **近視**

⑬⑭のレンズと、度数を 0.25D 下げた(-0.25D 加えた)レンズと比較すると

$-0.25 - (-0.25) = \pm 0$

0.25D 下げたレンズが**見やすい**

と言う



$-0.25 - (-0.25) = \pm 0$

屈折状態 **±0D**

装用レンズ **S+3.0D:C-2.0DAx180°**

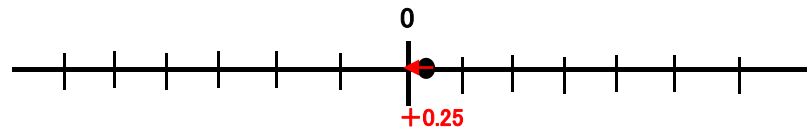
屈折の名称 **正視**

⑰さらに⑬のレンズと度数を 0.25D 下げた(-0.25D 加えた)レンズでは

変わらない

と言う

$\pm 0 - (-0.25) = +0.25$



$\pm 0 - (-0.25) = +0.25$

屈折状態 **S+0.25D**

装用レンズ **S+2.75D:C-2.0DAx180°**

屈折の名称 **遠視**

⇒
調節して

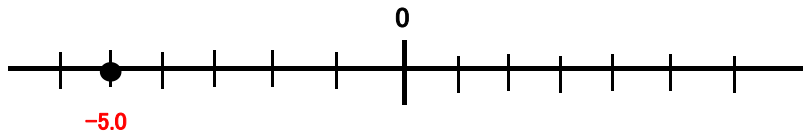
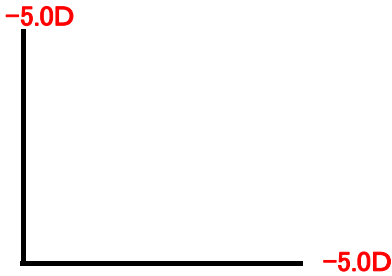
正視(網膜)へ

⑱最高視力が出る最も+寄りのレンズは？

S+3.0D:C-2.0DAx180°

EX) 実際の度数: S-5.0D

① 実際の屈折値



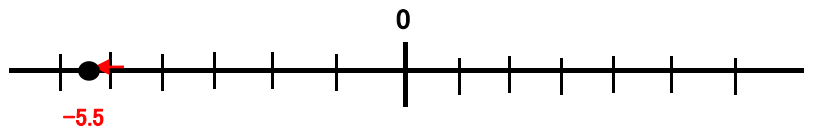
屈折の名称

近視

② +0.5D 入れると 見えにくい と言う

屈折のふり分け

近視又は正視



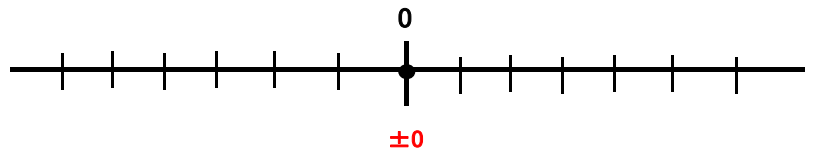
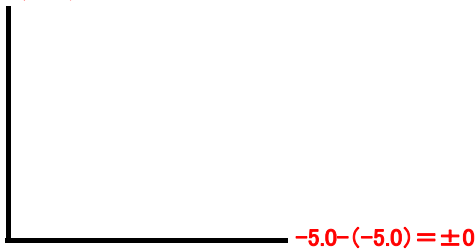
③ 乱視があると仮定して最高視力が出る網膜の位置は？

最小錯乱円

理論上、最高視力が出るのに必要な球面レンズ度数は？

S-5.0D

$-5.0 - (-5.0) = \pm 0$



屈折状態

S ± 0D

装用レンズ

S - 5.0D

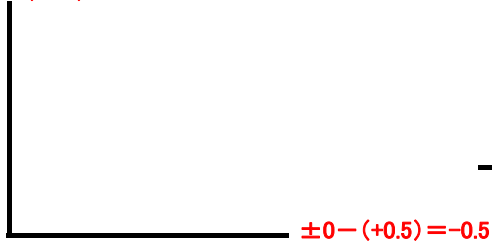
屈折の名称

正視

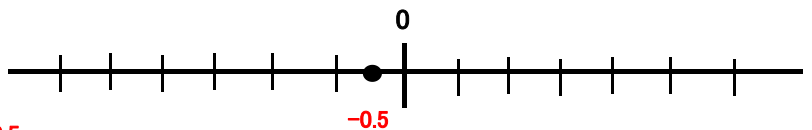
④ 乱視表を見せるのに必要な付加度数は？(後焦線を網膜上に)

S + 0.5D

$\pm 0 - (+0.5) = -0.5$



最高矯正視力値に応じて。
この場合、疾患がなければ
視力は良いでしょう。



屈折状態

S - 0.5D

装用レンズ

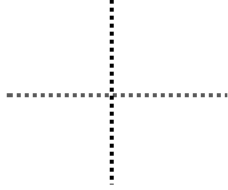
S - 4.5D

屈折の名称

近視

⑤この状態で乱視表を見せるとどう見えるか？

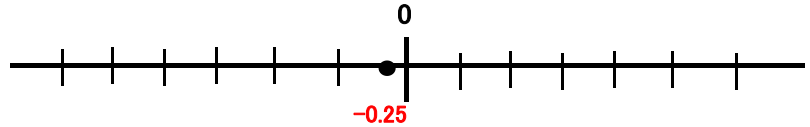
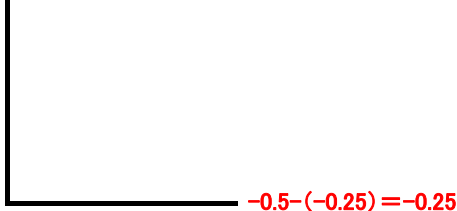
濃さ・太さのある
ところはない



⑥④のレンズから度数を 0.25D 上げる (S-0.25D 加える)

見やすい

$$-0.5 - (-0.25) = -0.25$$



屈折状態

S-0.25D

装用レンズ

S-4.75D

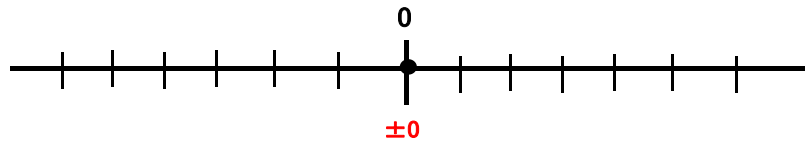
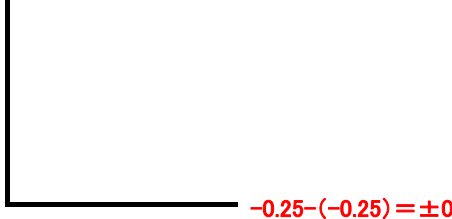
屈折の名称

近視

⑦さらに、度数を 0.25D 上げる (-0.25D 加える)

見やすい

$$-0.25 - (-0.25) = \pm 0$$



屈折状態

±0D

装用レンズ

S-5.0D

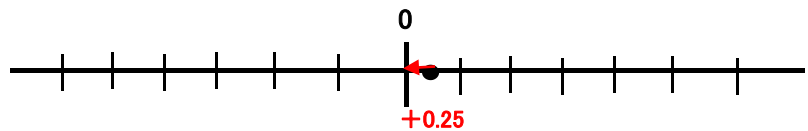
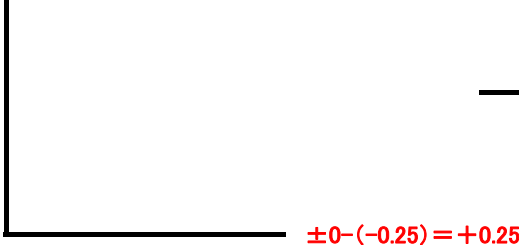
屈折の名称

正視

⑧さらに⑦のレンズと、度数を 0.25D 上げた (-0.25D 加えた) レンズと比較すると

変わらない

$$\pm 0 - (-0.25) = +0.25$$



屈折状態

S+0.25

装用レンズ

S-5.25D

屈折の名称

遠視

調節して



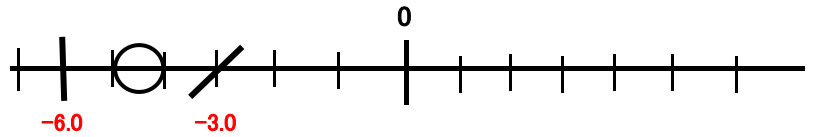
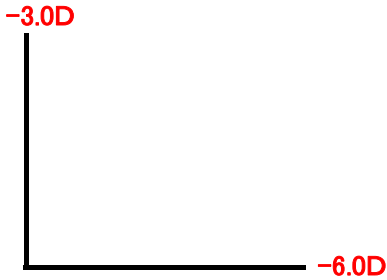
正視(網膜)へ

⑨最高視力の出る最も+寄りのレンズは？

S-5.0D

EX) 実際の度数 : S-3.0D : C-3.0D Ax90° $\xrightarrow{\text{変換}}$ S-6.0D : C+3.0D Ax180°

① 実際の屈折値



屈折の名称

近視性複乱視 倒乱視

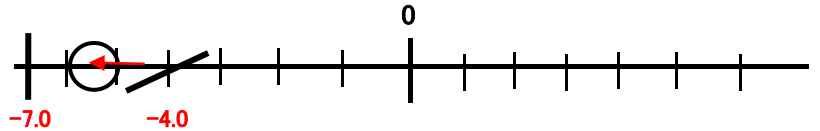
② S+1.0D 入れる

見えにくい!

と言う

屈折のふり分け

近視又は正視



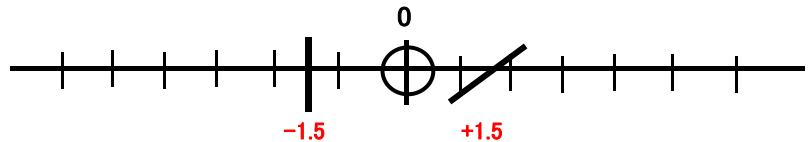
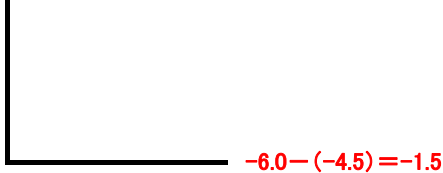
③ 最高視力が出る網膜の位置は?

最小錯乱円

理論上、最高視力が出るのに必要な球面レンズ度数は?

S-4.5D (等価球面度数)

$-3.0 - (-4.5) = +1.5$



屈折状態

S+1.5D : C-3.0D Ax90°

装用レンズ

S-4.5D

屈折の名称

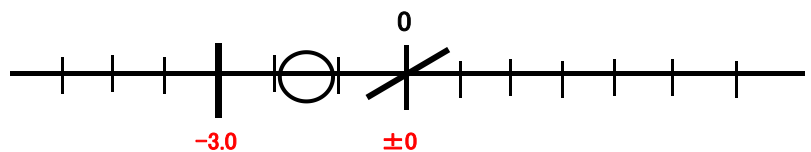
混合乱視 倒乱視

④ 理論上、乱視表を見せるのに必要な付加度数は? (後焦線を網膜上に)

S+1.5D

(乱視度数の 1/2)

$+1.5 - (+1.5) = \pm 0$



屈折状態

S±0D : C-3.0D Ax90°

装用レンズ

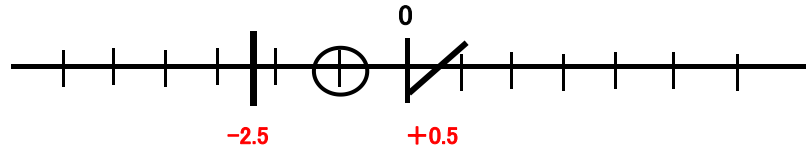
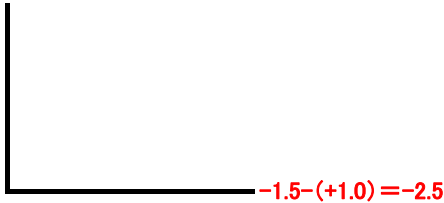
S-3.0

屈折の名称

近視性単乱視 倒乱視

⑤実際は S+1.0D 付加したとすると、

$$+1.5 - (+1.0) = +0.5$$



屈折状態

S+0.5D : C-3.0DAx90°

装用レンズ

S-3.5D

屈折の名称

混合乱視 倒乱視

⑥この状態で乱視表を見せると、どう見えるか？

横が濃い

と言う

180°

⑦乱視の矯正の軸は何度？

90°

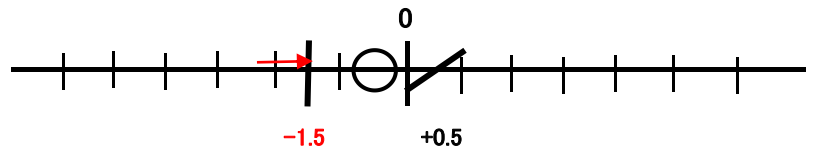
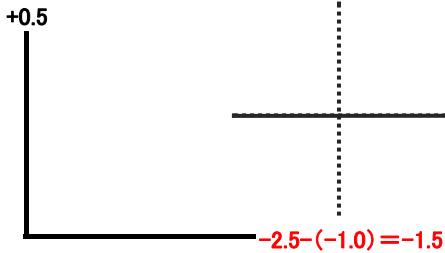


本当はC面のステップはもっと細かくね！

⑧C-1.0D Ax90° 装用させると乱視表は？

まだ横が濃い

と言う



屈折状態

S+0.5D : C-2.0DAx90°

装用レンズ

S-3.5D : C-1.0DAx90°

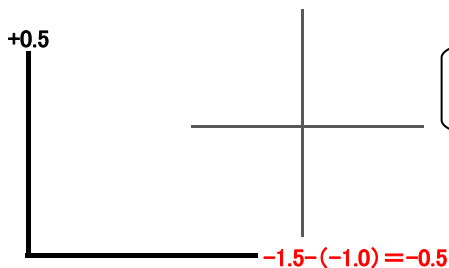
屈折の名称

混合乱視 倒乱視

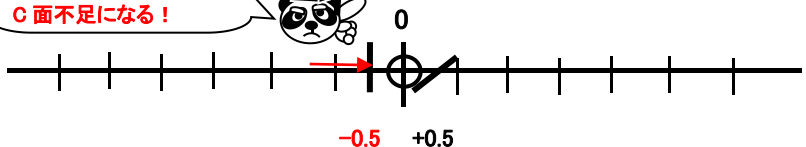
⑨C-2.0D Ax90° (C-1.0D追加) 装用させると乱視表は？

同じになった！

と言う



だから付加度数が不足だと、ここで止めるとC面不足になる！



屈折状態

S+0.5D : C-1.0DAx90°

装用レンズ

S-3.5D : C-2.0DAx90°

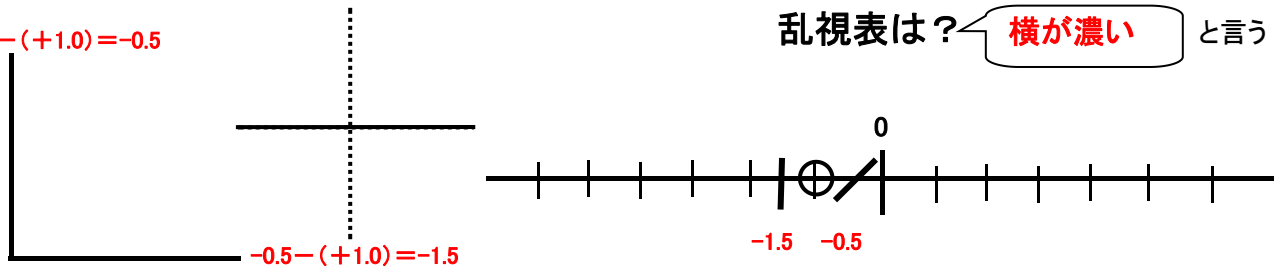
屈折の名称

混合乱視 倒乱視

⑩ 円柱度数が乱視表を見る時の付加球面度数の2倍になったのでS+1.0D追加する

$$+0.5 - (+1.0) = -0.5$$

乱視表は？ **横が濃い** と言う



屈折状態

S-0.5D : C-1.0Dx90°

装用レンズ

S-2.5D : C-2.0Dx90°

屈折の名称

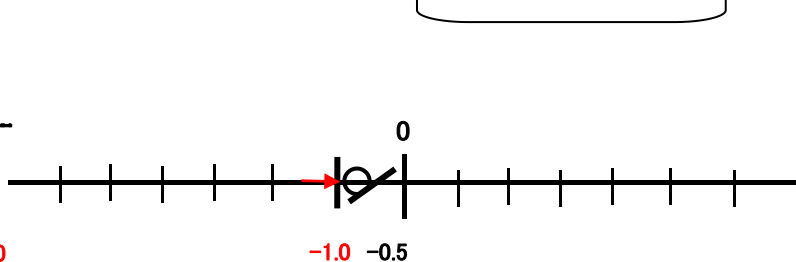
近視性複乱視 倒乱視

⑪ C-2.5Dx90° (C-0.5D追加)装用させると乱視表は？

横が濃いかなあ〜 と言う

$$-0.5$$

$$-1.5 - (-0.5) = -1.0$$



屈折状態

S-0.5D : C-0.5Dx90°

装用レンズ

S-2.5D : C-2.5Dx90°

屈折の名称

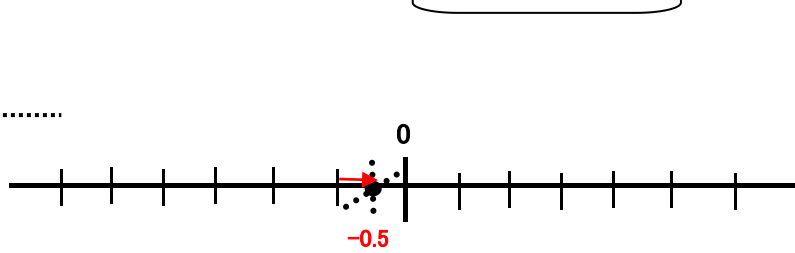
近視性複乱視 倒乱視

⑫ C-3.0Dx90° (C-0.5D追加)装用させると乱視表は？

同じになった! と言う

$$-0.5$$

$$-1.0 - (-0.5) = -0.5$$



屈折状態

S-0.5D

装用レンズ

S-2.5D : C-3.0Dx90°

屈折の名称

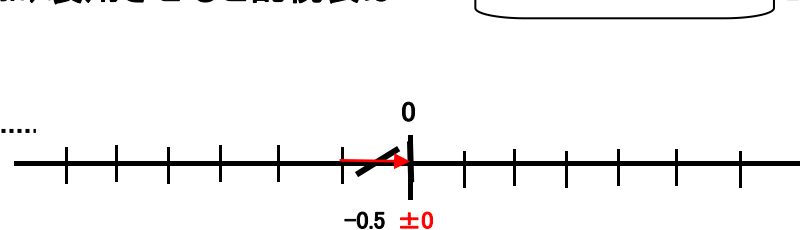
近視

○ 仮にC-3.5Dx90° (C-1.0D追加)装用させると乱視表は？

縦が濃くなった! と言う

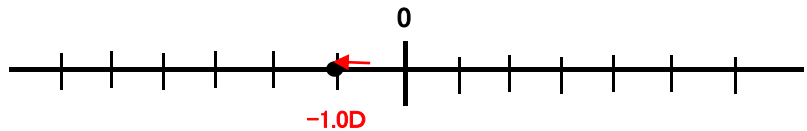
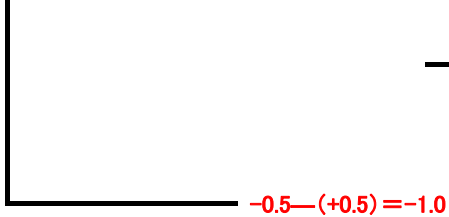
$$-0.5$$

$$-1.0 - (-1.0) = \pm 0$$



⑬ S+0.5Dで雲霧する **見えにくい!** という

$$-0.5 - (+0.5) = -1.0$$



屈折状態

S-1.0D

装用レンズ

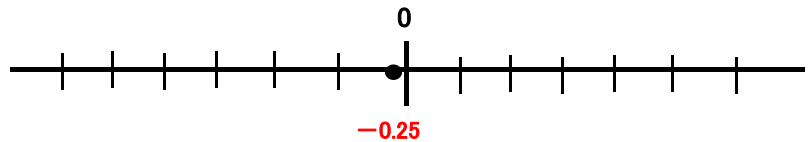
S-2.0D : C-3.0DAx90°

屈折の名称

近視

⑭ 雲霧レンズから度数を 0.75D 上げる (S-0.75D 加える) と **見やすい** という

$$-1.0 - (-0.75) = -0.25$$



屈折状態

-0.25D

装用レンズ

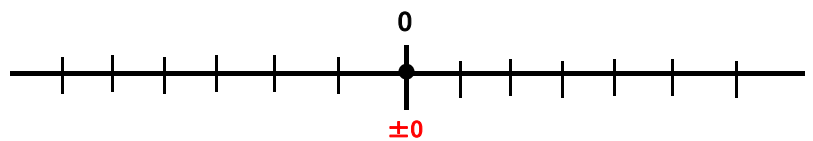
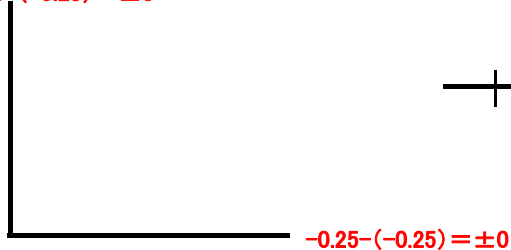
S-2.75D : C-3.0DAx90°

屈折の名称

近視

⑮ さらに、度数を 0.25D 上げる (-0.25D 加える) と **見やすい** という

$$-0.25 - (-0.25) = \pm 0$$



屈折状態

±0D

装用レンズ

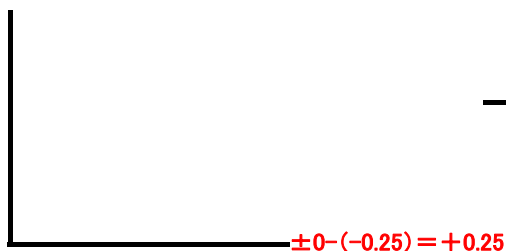
S-3.0D : C-3.0DAx90°

屈折の名称

正視

⑬⑭のレンズと、度数を 0.25D 上げた(-0.25D 加えた)レンズと比較すると **変わらない** と言う

$$\pm 0 - (-0.25) = +0.25$$



屈折の名称

遠視

調節して



正視(網膜)へ

屈折状態

S+0.25D

装用レンズ

S-3.25D : C-3.0D Ax90°

⑰最高視力が出る最も+寄りのレンズは？

S-3.0D : C-3.0D Ax90°

余談)



以前、乱視表のぼやける方向について、数人から厳しい御指摘を受けました。「網膜上で横に後焦線ができている場合、横方向が結像しているので乱視表は横方向がはっきりする。そして縦の前焦線は網膜の手前なので縦方向がぼやける。乱視表のはっきりしている方向が結像している方向なので、間違っている。」という内容でした。言葉の誤解なら、すいません。ずいぶん悩みました…。

次ページは、ネットのサイト”役に立つ眼鏡の情報～眼鏡学一部加筆”からの抜粋です。パンダは光の収束方向を結像という言葉を使用していましたが、本により色々です。言葉や伝え方は難しいですね。そして、思い込みも。

ちなみに事例は倒乱視（屈折の強い方向が横方向）ですから、
 屈折の弱い縦方向は網膜上で点。網膜上には横方向の横ブレが認識されます。

乱視は強弱主経線2方向のみで表すので点となります。
 例えば他の水平・垂直経線方向の光は屈折力が違います。

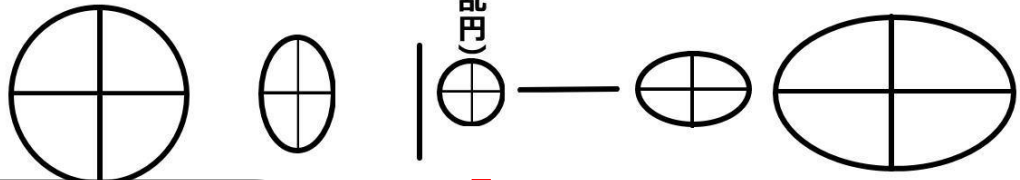
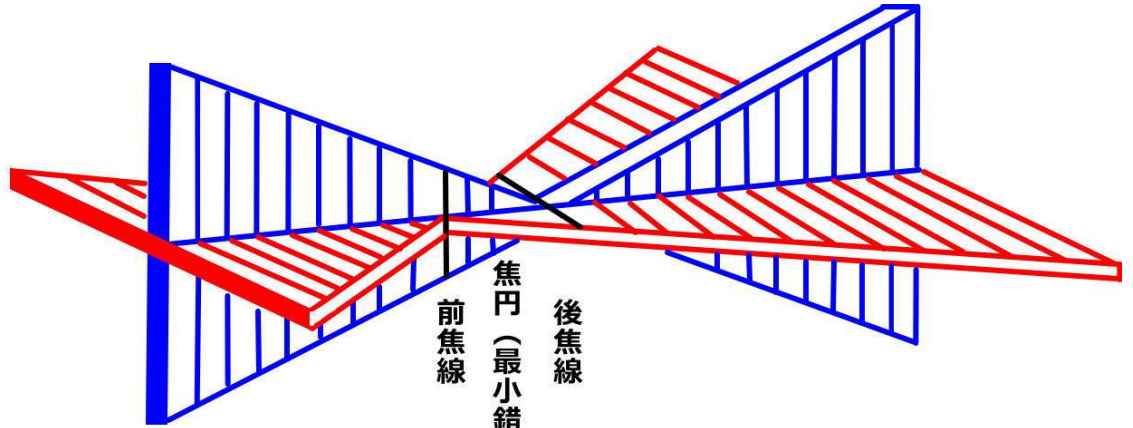
放射線上の濃さとはブレによって生じているものなのです。

ブレが大きければ大きいほどお客様は濃いと感じる訳です。

当然、乱視度数が強い

ほど濃く感じるわけ

です。



縦方向が点（結像が良い？）
 同程度ぼやけて正円となる
 横方向が点（結像が良い？）



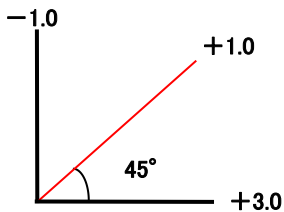
屈折矯正というのは、無調節状態での焦点を網膜上に移動させることですね。屈折状態は網膜に結像させる為に必要なレンズで表し、常に網膜上でどう見えるかが、その人の見え方となります。ただ、網膜上での見え方が結像している見え方とは限りません。網膜ではそう見えるという事です。なんかグルグル回ってしまいました。上手く言葉で説明できなくて、すみません。

◎パワークロス(十字法)について

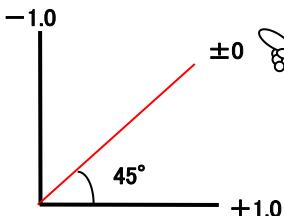
レンズの屈折状態を表す場合と眼の屈折状態を表す場合がある。



今さら、基本でごめんなさい！45°方向で悩んだのでパンダメモです。間違っていたらすみません。



眼だと90°と180°方向の経線の中央45°と135°で網膜に到達し、最小錯乱円となり、この位置での必要な度数となりますよね？レンズだとこの角度でこの度数となるレンズということですよ？



これだと度数が必要無いので眼だと網膜上だということですよ？

